

津乃峰山が焼けた

写真クラブ フォト四季会長

計盛 眞一朗



徳島県立文書館所蔵写真

右は市内在住の写真家木田英之が昭和28年(1953)に花嫁の初歩きを写した写真。挙式の前後に実家や嫁ぎ先の近所に、名入りの風呂敷や「花嫁さんのお菓子」などを手にあいさつ回りをする風習である。今では結婚式や披露宴を自宅で行うことが少なくなり、花嫁衣装で初歩きをする姿も見かけなくなってしまうので、この風習を伝える貴重な写真といえよう。

場所は津乃峰町にある阿波橋駅の東側。津乃峰神社の朱の大鳥居がある踏切と駅舎との間で、線路を挟んで北西に向かって撮影している。花嫁一行の向こうの畑に並ぶ大根は臺が立たないよう葉を切り落としてるので立春の頃の撮り影かと思われる。左手奥に八大神社の杜、山頂には津乃峰神社がある。右の丸い山は陣ヶ丸で、この周辺と東に続く尾根、八大神社の杜の上方は大きな木がなく山肌が白い。これはこの8年ほど前にあった山火事の痕跡である。

津乃峰山は江戸時代の後期に出版された『阿波名所図會』に「津峯の眺望」と紹介されるなど古くから知られた名所だが、『徳島縣災異誌』(昭和57年徳島県再刊)や当日以後の『徳島新聞』にも山火事の記事はない。ただ、見能林町協議会が昭和60年に刊行した『見能方のいまむかし』に「三谷山の火事」と題する旧見能林村警防団の山川甚吉の回顧談を載せている。

これによると昭和19年(1944)11月下旬の午前10時過ぎに、答島(現津乃峰町)の長浜にある共葬墓地の西側山林から出火したと、警防団本部に電話連絡があ

り、身支度をしてすぐに駆けつけた。隣接町村のほか那賀川北岸の平島・羽ノ浦からも警防団員が駆けつけ消火に当たった。火は西方の津乃峰神社や八大神社に迫ったが、風向が逆になり尾根を越えて三谷の方へ延焼した。昼食抜きで消火活動に当たり、火勢は三谷の岩崎の大岩付近でやっと収まった。午後4時頃、水を飲ませてもらおうと立ち寄った民家で「亥の子」の餅をごちそうになった。一度帰宅して夕食を取り再び現場に戻り徹夜で警戒。翌朝鎮火を確認し解散した、とある。

山火事はちょうど「亥の子」の日に発生。「亥の月」である旧暦10月最初の「亥の日」、「亥の刻」(21時〜23時)に餅を食べ、無病息災や子孫繁栄を願う行事である。この年は旧暦10月4日であり、新暦では11月19日だった。林野庁は山火事の7割が冬から春にかけて発生し、原因はたき火や火入れ、タバコの不始末など人の不注意によるものが6割以上だという。油断のない備えをしたいものである。

あなん文化紀行は偶数月号に掲載します。

科学センター

工作教室

●ミニクリスマスツリーを作ろう

松ぼっくりや木の実を使って、世界に二つだけの素敵なクリスマスツリーを作りましょう!

開催日 12月6日(日)

時間 ①午前10時〜11時30分

②午後2時〜3時30分

対象 どなたでも(小学3年生以下の方は保護者同伴)

定員 各回20人(先着順)

参加料 1工作につき300円

整理券 当日、窓口でお求めください。

※事前予約は不可。

特別観望会

ふたご座流星群を観察しよう

日時 12月13日(日) 午後7時〜9時

内容 ふたご座流星群のお話のあと、観望デッキに寝転がり流れ星の観察を行います。

対象 どなたでも(小中学生は保護者同伴)

参加料 大人300円、高校生250円、

小中学生200円、幼児無料

定員 20組60人程度(先着順)

申込方法 12月1日(火) 午前9時30分

から電話またはホームページよりお申し込みください。

持参物 寝転がれるレジャーシート

※悪天候時は中止。(中止判断は午後5

時30分頃)

問い合わせは 科学センター

☎42-1600

12月の休館日 7日(月)、14日(月)、

21日(月)、28日(月)〜31日(木)